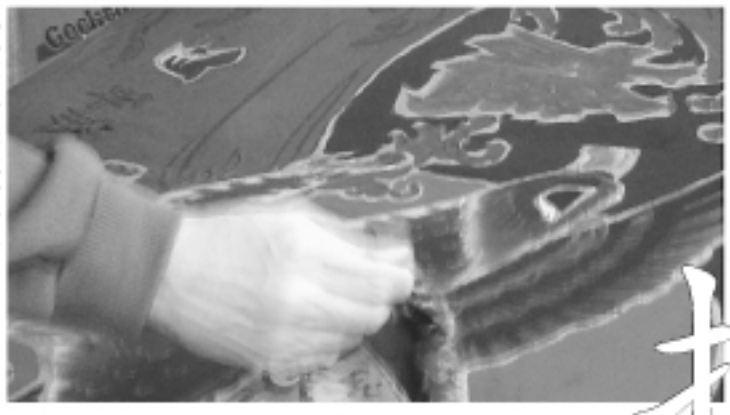
ゆうPress

伝統の技

兄弟で継ぐ

鮮やかな色彩が目を引く「万祝（まいわい）」式大漁旗。祖父と父、二代にわたり千葉県の伝統的工芸品に指定されています。七五三の祝の入れ、父親がつくってきたような長年の経験を引き継ぎつつ、兄の小澤亮一さんらと新の伝統さんらが日々、職人技の向上に努めています。家族総出で協力しているという銚子市の工房を訪ねました。（本吉真希）



ぼかしをつける父・克己さんの手さばき＝一月十日、千葉県銚子市

ゴトンゴトンと小さな一回転車に結びつけられると二十分。銚子電鉄の銚子駅を出発して車窓風景の大海原を眺めすぎると、終着駅の外川に着きました。駅前の商店を抜け、さらに細い路地に入ったところに小澤彩工場があります。暗くて外川漁港が広がります。

父親の克己さんとかの長男を学んでいる二人は、二十畳ほどの工場でもくもくと作業をしていました。

「いつもよりいいかもしれねえな」と克己さん。兄の亮一さんが畳三分の二畳ほどの大きさの布に、もち米から作ったのりで模様を描く作業＝「のり付け」をしていました。

一点集中

布の両端を木製の張り枠に挟んで広げ、五本の竹子（しんし）できちんとピンと広げます。腰の高さやゆるめる部分を不安定な形と向き合います。

一点集中。

「考えすぎると手が動かなくなる。（絵や文字の）勢いがなくなる」と亮一さん。

万祝式大漁旗の生産工程はの絵筆の下絵描きのり付けの色付けのりを洗い落とす洗濯一で

のり付け作業に集中する亮一さん

上達する面白さがある

す。図面を元にの模様が終わるとに配置します。父・克己さんのレベルに達するとは絵かき大まかな場所を部分だけ。最後、のり付けを始めます。

のり付けは全工程で、いちばんの要です。克己さんからいわれていることは絵と文字の構図のバランス。「のり付け時点で絵全体が見えていないといけない」。克己さんは亮一さんが描いた図柄の「足りない部分を見つけて」指示します。

亮一さんがのり付けをするようになったのは約二年前。「足を書いてみい」と父からいわれました。そのとき「よしっ」と思いました。「でも出来は「全然ですよ」。

いちばん難しいのは、のり付けに使う道具＝「筒引き」を使いこなすこと。筒引きは、ケーキに生クリームを絞るときに使う絞り袋に似ています。のりを押し出す力加減が難しい。

「つくものです。いうこと聞かない」。絞りスピードと押し出す力、すべてが連動します。使いこなせるようになるまで十年はかかるといいます。

3歳から

兄弟二人の生活に、いつも大漁旗はありました。「小さいころ、色塗りを手伝ったのが面白かった」。いまと変わらない工場で、三十四歳のときから“親方”の一年として独作りに触れてきました。いちばん簡単な手順やカモメを二「塗り絵」感覚で色塗りしました。

「絵さえ別がなく十分に楽せてもらった…」と振り返ります。

「小さいときから旗屋になるんだと思ってきた」。二人とも高校卒業と同時に家業の世界へと歩みました。

「八年たっても何もできねえなって思う」と亮一さん。

五年目の弘樹さんは、色付けの色指定となる箇所を筒引きで塗りつぶす「つぶし」や、数カ月前からは色付けの段階で色の調合をつける「ぼかし」をやらせてもらえるようになりました。

「仕事のスピードが上がったり、自分がうまくなったと感じたときが楽しい。やりながら何でも覚えていきたい」と弘樹さんはいいます。

「見て覚える」という父親。その技術は「すごい」と息子たち。

「筆の使い方が違います。かすりの塗り方とか『うまたっべ』って思う」「ぼかしがうまと一気に勢が立体的になる。雲曲気が変わる」。鶴亀、宝船など縁起物の絵柄、設明、字の形。「絵に勢いがある」と絵します。

父の夢は

小澤彩工場の家の祝敵は鮮やかな色使いと躍動感です。新注文の注文式に使う大漁旗のほか、結婚、誕生、節句、開店などの祝い旗も制作しています。

大きいもので八畳分。幅九十七、長さ三・三の布を縦横に縫い合わせて一枚の旗に仕上げます。

豊漁を祝って船主が病気から復帰に縫われた祝い幕のことを万祝といいます。江戸時代の終わりに生まれた染色技法を現在に生かします。

「見ての通りの職人技。五年十年ではものにならない。すべて自分でこなすには十五年かかる。おれもおやじの下で二十年、今年で三十八年目ですが、まだ知らないものもねえし」と父・克己さん。息子二人に絵手思いは「絵を上手で、とりあえず平面でもろうこと」と語ります。

伝統的工芸を時間をかけて職人への道一。亮一さんはいいます。

「たいへんはたいへんですけど。でも、ずっとできなかったものが、ふとできる。そんなときはやって面白い。技術が必要な時はみんな同じと思いますが、技術と連していく面白さがある」

染め付けをする弘樹さん

何でも覚えていきたい

お悩みHunter

「受験勉強は本当の勉強？」友人と論争

Q ぼくは受験生です。この間、友人と論争していて疑問に思うことがありました。友人は受験勉強は本当の勉強ではない

「おぼえ」を問って、てばわずほお　二人が論じ合っていが挙がりました。このよるとは、どちらも正うに本当に役立たたかわ　論です。「受験勉強」せる実際って意義　は確かに「本当の勉んだ、大学に入るためにやっているんだと言っていました。確かに部分的かもしれないけど、身につくことはたくさんあります。友人のような考えは絶対がいきません。（高校三年生、千葉県）

A 「受験」ではありません。最近発覚した「世界史」や「資料」の履修漏れ、総合学習の手ともやっていなかった問題などを考えると、今日の高校がいかに「受験」に偏重した授業に陥っているかがかがえます。

高校で学ぶべき教科や学習範囲、教育は、大学受験科目でもなかなか否かとか、よく出題されるかどうかなどが基準になるものではありません。高校生に自分とは何かをじっくり考え、アイデンティティを確立させるとともに、自分の人生的課題について考察できる視点や思考様式をいかに養成させるのかがある。あるいは学習とのつながりの中でいかに自己認識を深化させるのか、これらの大切な総課題を考え学び、勉強するのではないでしょうか。

ですから、哲学や倫理学を中心とする人、社会学的思想を専門とするための諸科学、性の学問、地球・環境問題など、高校で検討されている全科目が大切なのです。人間関係のスキルの獲得や新しい自分づくりへの挑戦も重要な課題です。これらの問題を忘れずに、受験勉強に向きあえば矛盾は自然に解決することでしょう。

教育評論家　尾木　直樹さん

法政大学キャリアデザイン学部教授。中高二十二年間の教師経験を生かし、教育研究、全国の講演活動等に取り組む。著書多数。

どちらも正論。原点忘れずに

月曜Letter

最初はつい若作り

現在放映中の韓国ドラマ「春のワルツ」（NHK総合・木　夜10・0）で、ヒロイン・ウニョンの声の吹き替えをしっかり取り組んでいます。

ウニョンを演じるハン・ヒョジュさんは二十代。すごくかわいいですから、最初はつい若作りしてしまって、ディレクターから、「もっとおとなっぽくしてほしい」と言われてしまいました。

女優　加藤　忍さん①

韓国ドラマの吹き替えが多いんですが、声優はエネルギーの使い方が違う。声だけで、画面に映っているのは自分じゃないですから、一体化するのが難しい。ドラマを見た知人から「ウニョンの声と違う」と言われるね」とEメールをもらって、少し安心しています。

ユン・ソクホ監督のドラマは、大好き。映像が美しくて、感動です。冬のソナタもそうでしたが、春のワルツは、黄色の使い方が美しい。ストーリーは、究極の純愛です。やはり、日本人の皆さんが近い韓国の方が感じているから、感動が増すのかなと思います。私も感じたいとすごく思いますね。（つづく）

かとう・しのぶ　一九七三年十月生まれ。神奈川県出身。第三十九回毎日新聞演劇賞優秀新人賞受賞。

レイアウト　加茂　恵子

革新懇ブックレット

日本の進むべき大道、青年の明るい未来への道がここにあります。

反響続々

世界の流れと革新懇運動の未来

★男性（66歳）世界はすごく進歩していること、平和追求があたりまえで、その方向に動いていることがわかり、目の前が明るくなりました。
★女性（74歳）柔かいなかに、明るい希望ある志位さんの話に励まされました。
★女性（27歳）志位さんが近くで見れたことも、うれしかったけれど、話を聞けば聞くほど国民にも青年にも近い人なのだと思いました。Wでうれしいです。
★男性（24歳）志位さんの話はやらせでもなく、無難な話でもなく、立場がはっきりしていて、すばらしかった。

全国革新懇代表世話人
日本共産党委員長
志位和夫

2つの魅力

●軍事同盟の解体、「新自由主義」の破たんなど21世紀の世界の流れを、最新の資料も使い深部から解明。平和・民主主義・生活向上の民主連合政府づくりが未来ある目標で、ロマンあふれる運動であることがよくわかります。
●「友だちに平和や政治を語るときのポイントは？」「生活苦の青年にメッセージを」「志位さんが共産党に入ったきっかけは？」など「青年のつどい」での質問に、自身の生いたちや共産党員像にもふれて縦横に回答し、魅了した90分間を一挙公開。生き方を探る青年にぜひ薦めたい冊子です。

学習会に最適

A5判77頁
頒価
300円
（送料・180円）

ご希望の方はFAX、メール、電話等でお気軽にお申込みください。【申込先】全国革新懇　〒160-0004 東京都新宿区四谷3-8 三橋ビル5F TEL.03-3357-5515 FAX.03-5363-8965 メール zenkoku@kakusinkon.org/